

地獄の一季節註解(六)

小田良弼

☆

Les blancs débarquent. Le canon ! Il faut se soumettre au baptême, s'habiller, travailler.

J'ai reçu au cœur le coup de la grâce. Ah ! je ne l'avais pas prévu !

白人どもが上陸する。宗法儀典。洗礼を受け、着物を着て、働かねばならない。

俺は聖寵の一撃を心臓に受けてゐた。ああ、それを俺は予知してゐなかつたのだ。

Les blancs débarquent. Le canon ! : —

この *Les blancs débarquent* と云ふのは、イメージとしてはさきの *plage armoricaine* (Mauvais Sang, p. 18.) あるひは *Bateau ivre* において、最後のところで一旦捨離したヨーロッパへ帰らんことを想ふ条に通ずるものであつて、有化還相行を語るものである。

そこにこそ抽象的彼岸の世界ではない最も具体的な此岸のランボオ的

世界、ランボオの神の世界があつたわけである。だから *le canon* といふのである。この有化還相行がランボオ的宗規の命ずるところなのである。

Cf. *Nuit de l'Enfer*, p. 34.

Et c'est encore la vie ! — Si la damnation est éternelle !

Un homme qui veut se mutiler est bien damné, n'est-ce pas ?

Je me crois en enfer, donc j'y suis. C'est l'exécution du catéchisme. Je suis esclave de mon baptême.

而もそれも矢張り生活だ。「而も矢張りそれが生活だ。」——地獄の責苦が永劫のものとするならば「としてもだ」。自ら手足を切つて不具にならうとするものは、「自ら手足を切らうとするものは」「まさしく地獄に堕ちた男ではないか。俺は自分が地獄にあると信じてゐる。だから俺は地獄にある。それこそ教理問答書カテシスマムの実践だ。俺は自分の受けた洗礼の奴隷だ。

Il faut se soumettre au baptême, s'habiller, travailler : —

この baptême は、もちろんランボオ的宗教的世界の baptême である。ランボオ的宗教的世界の宗規の命ずるところによって、この有化還相行の baptême をうけねばならぬことをいふのである。前掲「地獄の夜」にも「これこそ教理問答書の実践だ。俺は自分の受けた洗礼の奴隷だ。」と云つてゐる。

この baptême をうけることは、地獄に足を下ろすことでもある。責を背ともけねばならぬであらう。しかしそれも宗規の命ずるところである。

s'habiller は Mauvais Sang, p. 13 における

Je trouve mon habillement aussi barbare que le leur.

この服装にしたって、彼等なみの野蠻さだ。

あるいは同十八頁における plage armoricaine における生活、あるいは

は Les Sœurs de Charité における

Le jeune homme dont l'œil est brillant, la peau brune,

Le beau corps de vingt ans qui devrait aller nu,

Et qu'eût, le front cerclé de cuivre, sous la lune

Adoré, dans la Perse, un Génie inconnu,

.....

その若者、眸は輝き、皮膚は褐色、

裸のまま歩いてよ、二十歳の見事な肉体をして、

額ヒタヒは赤毛に縁ヒどられ、月光の下、ヘルシヤの国で、

或る未知の精霊を礼拝したともおぼしき若者、

.....

この若者に対蹠的に対応するものである。現世否定の彼方にある裸の世界に対して、有化還相行として、このヨーロッパの風習にも絶対肯定的に従はうといふわけである。

travailler は

Cf. Mauvais Sang, p. 14.

J'ai horreur de tous les métiers. Maîtres et ouvriers, tous

paysans, ignobles. La main à plume vaut la main à charrue.

—— Quel siècle à mains! —— Je n'aurai jamais ma main.

ありとあらゆる職業がやり切れない。親方〔教師〕と職工、全ての百姓〔全て百姓だ〕、穢はしい。ペンを持つ手も鋤をとる手も同じ事だ。——なんと手許り幅を利かせる世紀だらう。——俺は自分の手など決して使ひませぬ。

Cf. Délires, I, p. 43 et p. 46.

Jamais je ne travaillerai

il ne travaillera jamais.

俺はいつのまにか働かぬさ……

決して働からぬさよ……

Cf. Qu'est-ce pour nous, mon cœur?

Jamais nous ne travaillerons, ô flots de feux!

おお火の波よ、金輪際、俺らどこでも働かぬぞー

Cf. Mauvais Sang, p. 28.

La vie fleurit par le travail, vieille vérité: moi, ma vie n'est pas assez pesante, elle s'envole et flotte loin au-dessus de l'action,

ce cher point du monde.

労働によって生活が花咲くとは、今も変らぬ真実だ「古めかしい真理だ」。処が俺の生活は十分目方が掛らない。世界の重点「この世の大切な点である」、行動「たつき」といふものの遙か上層に飛び去り、漾ってゐるのだ。

等々のごとくランボオは travailler すむことを否定してゐる。今、この travailler に絶対肯定的に従はうといふわけである。

かかる有化還相行に於てこそ Veillées, I に於ける

C'est le repos éclairé, ni fièvre ni langueur, sur le lit ou sur le pré.

C'est l'ami ni ardent ni faible. L'ami.

C'est l'aimée ni tourmentante ni tourmentée. L'aimée.

L'air et le monde point cherchés. La vie.

—— Étrait-ce donc ceci ?

—— Et le rêve fraîchit.

明るい休息だ、熱もなく、けだるさもなく、寝台の上に、草原の上に。

友は、烈しくもなく、弱くもない男。友よ。

愛人は苦しめもせず、苦しめられもせぬ女。愛人よ。

求められたのではない空気とこの世と。生活。

——ではやっぱりこれだったのか。

——さうして夢は風が吹きつゝのる。

かくのごとき「柳緑花紅」の世界、あるひは「至り得、帰り来れば

なし」といふやうな世界も具現し得たのである。単なる否定的死の世界にはかかる世界は現成すべくもなかつたのである。

J'ai reçu au cœur le coup de la grâce. Ah! je ne l'avais pas prévu! : ——

この有化還相の世界に真にランボオの世界がひらかれるのであり、死の世界、ennui を超克することができたのである (Cf. Mauvais Sang, p. 27)。かくて正に心に coup de la grâce をうつける思ひをしたわけである。否定的転換による有化還相、復活をいふわけである。Ah! je ne l'avais pas prévu には、そこに慚愧の思ひが述べられてゐるわけである。かかる coup de la grâce をうつけることによつて、そこに絶対無畏の安樂行が展開せられるわけである。

Je n'ai point fait le mal. Les jours vont m'être légers, le repentir me sera épargné. Je n'aurai pas eu les tourmens de l'âme presque morte au bien, où remonte la lumière sévère comme les cierges funéraires. Le sort du fils de famille, cerueil prématuré couvert de limpides larmes. Sans doute la débauche est bête, le vice est bête; il faut jeter la pourriture à l'écart. Mais l'horloge ne sera pas arrivée à ne plus sonner que l'heure de la pure douleur! Vais-je être enlevé comme un enfant, pour jouer au paradis dans l'oubli de tout le malheur?

俺は悪を少しも冒してゐなかつた。その日その日は爽やかに過ぎて行き、先き先き後悔する事もなからう。善に於いて殆ど死んだや

うに別事なつてゐる俺の魂、葬ひの蠟燭のやうに蔽しい光が浮き上る俺の魂に、悩みはなかつたのであらう。良家の子の宿命だ、清らかな涙のそそがれた若死だ。勿論放蕩は愚劣である、悪徳は愚劣である。腐肉は遠くへうっちらるがいい。だが、時計は、この純粹な苦悩の時間だけしか打たぬやうになるのではなからう。俺は、あらゆる不幸を忘れて天国に戯れて遊ぶ為に、小兒のやうに攫はれてしまふだらうか。

Je n'ai point fait le mal : —

Mauvais Sang, p. 20 y

On ne part pas. — Reprenons les chemins d'ici, chargé de mon vice, le vice qui a poussé ses racines de souffrance à mon côté, dès l'âge de raison — qui monte au ciel, me bat, me renverse, me traîne.

出発は見合はせだ。——この身の悪徳を背負って、また足元の道を辿り直すでしょう。分別がつく年頃になってこの方、俺の脇腹に苦悩の根を下した悪徳を、——空にも翔り、俺を叩きのめしては曳摺り廻す悪徳を背負って。

といてゐるやうに、この還相行は悪徳を背負って歩かねばならない。悪徳はどこまでも悪徳であつてけつして善ではない。しかもかく、Je n'ai point fait le mal といつてゐることは、悪徳を背負って歩くことは矛盾するわけである。しかし否定的転換による有化還相の世界——そこにつきの節に出てくるやうにイノサンスの世界、豊かな流転の自然法爾の世界も展開せられてくるのである。——においては矛盾してゐて矛

盾しないのである。悪にみて悪にゐない莫作の世界であるからである。それは善悪を超えた世界だからである。

Cf. Matinée d'Ivresse.

On nous a promis d'enterrer dans l'ombre l'arbre du bien et du mal, de déporter les honnêtetés tyranniques, afin que nous amenions notre très pur amour.

俺達の最も純粹な愛を醸し出す為に、善悪の樹を暗闇の中に埋葬し、暴君的な誠実を流刑に処する事を、俺達は約束されたのだ。

Cf. Bannières de Mai.

Je veux bien que les saisons m'usent.

A toi, Nature, je me rends ;

Et ma faim et toute ma soif.

Et, s'il te plaît, nourris, abreuve.

季節々々がこの俺を使ひ減らしてくれればいい。

自然よ、此の身はおまへに返す、

こんな渴きも空腹ヒモシヤも。

お気に召したら、食はせろよ、飲ませろよ。

Bannières de Mai のこの箇所も論理的には明かに矛盾してゐる。しかも忍耐追放の祭に現はれる Éternité, Age d'Or の世界、言葉をかへれば Innocence の世界においては矛盾してゐて矛盾しないのである。「莫作」の世界だからである。

かかる世界は停滞することのない此岸の生々流転の世界だから、つきこのやうに Les jours vont m'être légers といひ得るわけである。

Les jours vont m'être légers, le repentir me sera épargné :

この莫作の自然法爾の世界は軽さの世界でもある。無所住、無畏、流転、任運の軽さである。

かかる世界は時間論的にいへば科学的計量的時間を超えた世界であり(後述)、したがって前後際断であり、一期一会であり、過去に煩はされることなく、未来におのくこともない、無畏無求の世界である(Cf. Fêtes de la Faim, etc.)。現在即永遠であり(Cf. L'Eternité, etc.)。一時一時の一事一事に絶対現成を行ずるのみである。そこからくる任運の軽さである。

Cf. L'Eternité.

Puisque de vous seules,

Braises de satin,

Le Devoir s'exhale

Sans qu'on dise : enfin.

Là pas d'espérance,

Nul orieur.

Science avec patience,

Le supplice est sûr.

編子の肌した深紅の燠よ、

それそのおまへと燃えてゐれあ、

義務はすむといふものだ

地獄の 一季節 註解

やれやれといふ暇もなく。[遂にといふことはなく。]

もとより希望があるものか、

願ひの条があるものか。

黙って黙って勘忍して「学問しても忍耐しても、(小林訳)」

苦痛なんざあ覚悟の前。「罰は必定だ。」

かくつ

O saisons, ô châteaux,

Quelle âme est sans défauts ?

.....

季節が流れる、城塞が見える、「おお季節よ、おお城よ、」

無疵な魂など何処にあらう...

.....

の世界も出づるのじある、Je veux bien que les saisons m'usent (季節々々がこの俺を使ひ滅らしてくればよい)ともいひ得るわけである(Cf. Bannières de Mai.)。

Mauvais Sang, p. 28 じあ

La vie fleurit par le travail, vieille vérité : moi, ma vie n'est pas assez pesante, elle s'envole et flotte loin au-dessus de l'action, ce cher point du monde.

労働によって生活が花咲くとは、今も変らぬ真実だ「古めかしい真理だ」。処が俺の生活は十分目方が掛からない。世界の重点「この世の大切な点である」、行動「たつき」といふものの遙か上層に

五五

飛び去り、羨ってゐるのだ。
とらいつてゐる。

Cf. Age d'Or.

Le monde est vicieux ;

Si cela t'étonne !

Vis et laisse au

L'obscur infortune.

O ! joli château !

Que ta vie est claire !

De quel Age es-tu,

Nature princière

De notre grand frère ? etc

現し世 カッ なんて悪の世ぞ、

何とて お前はおどろくか！

生きよや 日蔭の不運をば

炎の中に 燃やすべし。

とても美しや！ 城の影！

お前の生命は輝けり！

ああ、いつくしき大自然

我が大いなる兄弟よ フレカラ

お前の齢はいくばくぞ？ ムヒ e t c.....

悪にゐてゐない自然法爾の任運の世界であり、これがそのまま軽さの世
界でもある。

Bannières de Mai マイの幟

Je veux que l'ééré dramatique

Me lie à son char de fortune.

Que par toi beaucoup, ô Nature,

—— Ah moins seul et moins nul ! —— je meure.

.....

Et libre soit cette infortune.

ドラマチックな夏こそは「夏が」

『運』の車にこの俺を、縛ってくれるでござよろし、「縛って
くれるやうに」

自然よ、お前の手にかかり、

——ちつとはましに賑やかに、死にたいものだ！

.....

ただこの不運に

屈托だけはないやうに！

といふのも同様の世界を意味するわけであり、Comédie de la Soif, 5
に於ける

Mais fondre où fond ce nuage sans guide,

—— Oh ! favorisé de ce qui est frais !

Expier en ces violettes humides

Dont les aurores chargent ces forêts ?

よし、当所ない浮雲の、とろける処でとろけよう。

——ああ、爽かな、爽かなものの手よ。

露しいた葦のなかでこと切れよう。

明け方が、葦の色に野も山も、染めてくれぬとは限るまい。

かかる行雲流水の軽さもうたはれてゐるのである。尤もこの *Comédie de la Soif* の軽さは、酒を与へてくれる *Parents (Dieu)* の恩寵による絶対受動的流転の軽さである (Cf. *Comédie de la Soif, I.*)。Ah! *tarir toutes les urnes!* (ああ、甕といふ甕が干したい) といふ、あなたまかせの安らかさ、軽さである。ランボオにおける軽さには *Parents, Dieu* があるのである。またそれなくしては真の軽さを出てこようわけではないわけである。

前後際断的に、一時一時の一事一事に絶対現成を行ずる任運の軽さには何の悔もあらうはずはない。 *le repentir me sera épargné* といふ所以である。正に前掲 *L'Eternité* に於ける *Puisque de vous seules, / Braises de satin, / Le Devoir s'exhale / Sans qu'on dise: enfin, /* *Solde* といふ所

Les richesses jaillissant à chaque démarche! Solde de diamants sans contrôle!

歩むに従って、迸り出る様々な富。無統制のダイヤモンドの投売
り。
とこいつるる。

Je n'aurai pas eu les tourments de l'âme presque morte au bien, où remonte la lumière sévère comme les cierges funéraires.

res: ——

presque morte au bien といつてゐるこの *bien* は *le mal* に対する *bien* で、善において死するとは善悪の否定的超越を意味する。

Cf. *Matinée d'Ivresse.*

On nous a promis d'enterrer dans l'ombre l'arbre du bien et du mal, de déporter les honnêtetés tyranniques, afin que nous amenions notre très pur amour.

俺達の最も純粋な愛を醸し出す為に、善悪の樹を暗闇の中に埋葬し、暴君的な誠実を流刑に処する事を、俺達は約束されたのだ。

かかる善悪の否定的超越の立場、しかも悪にゐてゐない莫作の世界は軽やかな悔ゆることのない世界であり、一時一時の一事一事に絶対現成を行ずるのみであり、そこには本来何等の *tourments de l'âme* もないわけである。

かかる世界は死を媒介とする絶対否定即絶対肯定であるから、いはば死において生を行ずる世界であるから、当然どこに *lumière sévère* があるわけだ。 *où remonte la lumière sévère comme les cierges funéraires* といふ所以である。

しかもかかる有化還相行こと、前掲 *Veillées, I* に於て語つてゐるやうに「至り得、帰り来れば別事なき」世界、「花紅柳緑」の世界である故に、 *Je n'ai point fait le mal* といふ、 *Je n'aurai pas eu les tourments de l'âme* といふわけである。予見もしなかつた世界の展開に今思ひ當つたわけである。 *soit la fatalité du bonheur* (Cf. *Délirés, II, p. 60.*) *Bonheur que nul n'éluide* (Cf. *O Saisons, ô Châteaux.*) 云

いふ、ランボオの、宿命として誰しもが逃れ得ぬ、一切の根拠としての幸福の世界の思想につながるものがあるわけだ。

Le sort du fils de famille, cerceuil prématuré couvert de limpides larmes : —

このやうに善に死すること、相對界に死することは、前述のごとく一切の存在の根拠としての Bonheur の世界に立ち還ることであれば、それは当然 fils de famille の宿命でもあらわけだ。この fils de famille とは Mauvais Sang, p. 14 也

Pas une famille d'Europe que je ne connaisse. — J'entends des familles comme la mienne, qui tiennent tout de la déclaration des Droits de l'Homme. — J'ai connu chaque fils de famille !

凡そヨーロッパの家庭で、俺の知らないのは一つもない。——自分の家庭のこのやうに解るのだ。どの家庭も、何から何まで人権の宣言のお蔭を蒙つてゐる。——良家の子弟といふ奴を、どういふことも俺は知つたのだ。

この fils de famille 即ち la déclaration des Droits de l'Homme のお蔭を蒙つてゐるものゝ fils de famille をいふものである、かかる fils de famille とくども、それが自らも依つて立つ根拠の世界である限り、fatalité としてまぬがれ得ぬ世界であるわけだ。Le sort du fils de famille とは所以である。

Cf. Délices, II, pp. 60-61.

Je vis que tous les êtres ont une fatalité de bonheur : l'action n'est pas la vie, mais une façon de gâcher quelque force, un

énervement. La morale est la faiblesse de la cervelle. …… Le Bonheur était ma fatalité, mon remords, mon ver : ma vie serait toujours trop immense pour être dévouée à la force et à la beauté. 俺はすべての存在が、幸福の宿命を持つてゐるのを見た。行動「たつき」は生活ではなくて、或種の力、或る神經の苛立しさを廉売する方法なのだ。「或種の力の浪費だ、消耗だ。」道徳とは脳髓の弱さだ。……『幸福』は俺の宿命であつた、悔恨であつた、身中の虫であつた。幾時になつても、俺の命は、力や美に捧げられるにはあんまり大き過ぎるのかも知れない。

Cf. O Saisons, ô Châteaux.

J'ai fait la magique étude

Du Bonheur, que nul n'élude.

私の手がけた幸福の

秘法を誰が脱れ得よう。

Conte におこす

Mais ce Prince décéda, dans son palais, à un âge ordinaire.

Le prince était le Génie. Le Génie était le Prince.

だが、この『王子』はその宮殿で、尋常の齡、天寿に由つて身罷つた。『王子』は『天才』〔ジニイ〕であつた。『天才』〔ジニイ〕は『王子』であつた。

この Prince は頭で

Un Prince était vexé de ne s'être employé jamais qu'à la perfection des générosités vulgaires.

或る『王子』が、かへりみれば、ただただ何の奇もなし「世俗の」贅沢三昧に、日を暮して来た事を思つてむかむかした。

とらつてゐるやうに、また dans son palais, à un âge ordinaire とらつてゐるやうに fils de famille の一人であり、常人でもあつたわけだ。その Prince が Génie であつたのだが、その Génie は

Un Génie apparu, d'une beauté ineffable, inavouable même.
De sa physionomie et de son maintien ressortait la promesse
d'un amour multiple et complexe ! d'un bonheur indicible,
insupportable !

何とも言ひやうのない、いや、言つてはならないほど麗しい一人の『天才』「ジェニイ」が姿を現はした。その容顔から、举措から、何とも定め難い、いや、支へ兼ねるほどの幸福の、幾重にも錯雑した恋愛「愛」の約束が放たれた。

とらつてゐるやうに、愛の、幸福ののぞみとしての Génie であつた。また“Génie” (Les Illuminations) の中で語つてゐるやうに、Génie は現在であり、未来であり、永遠であり、愛であり、シャルムであり、délice であり、……ランボオの絶対であり、神でもあつたのである。

fils de famille の一人であり、常人でもあつた Prince が、絶対であり神でもあつた Génie であり、Génie はかかる Prince であつた。Prince 即 Génie、Génie 即 Prince であつたのである。Prince は自己の依つて立つ根拠としての bonheur, Génie であり、どの bonheur, Génie は抽象的彼岸の世界にあるものではなく、Prince を、常人を媒介として現成する具体的此岸の世界であつたわけである。かくて Le sort du

fils de famille とらつたわけである。

そしてかかる Prince 即 Génie、Génie 即 Prince とらつたのは否定的転換、abnégation (Cf. Mauvais Sang, p. 21.) を媒介とすべき故に、cerueil とらつたわけであり、その cercueil には涙 & limpides larmes がそとがれるわけである。

Cf. Mauvais Sang, p. 20.
soulever, le poing desséché, le couvercle du cercueil, s'asseoir,
s'étouffer. Ainsi point de vieillesse, ni de dangers : la terreur
n'est pas française.

O mon abnégation, ô ma charité merveilleuse ! ici-bas ! pour-
tant !
De profundis Domine, suis-je bête !

萎びた拳で、棺桶の蓋を揚げ、腰を下して、息が絶えるのだ。かうすれば老衰もなく、危険もない。恐怖はフランス趣味でない。...

..
おお俺の自己抛棄、おお俺の不可思議な慈愛、だがそれも、この世でのこと。

主よ、奈落の底より、寔に俺は阿呆だ。
prématuré とらつたのは、恐らくこれが生死的な意味での死ではなく、哲学的意味での死であることによつていつてゐるのであらう。死において生を行なふ意を cercueil prématuré とらつたのである。

Sans doute la débauche est bête, le vice est bête ; il faut jeter
la pourriture à l'écart : —

この有化還相行が *le monde* に足を据ゑ、*le vice* に足を据ゑようとするものである限り、一応外面的にはそこに *débauche* の姿をとるわけであり、かかる *débauche*, *vice* はいはば *pourriture* であり、それは遠くへ打ち捨てられるべきものではあらう。もちろん打ち捨てるといつても、それからの逃避を意味するわけではない。超克の意味でいふわけである。此岸の世界の *débauche*, *vice* に足を据ゑての超克をいふわけである。さりとてそれが容易の業であるわけではない。かくてつぎのやうにいふわけである。

Mais l'horloge ne sera pas arrivée à ne plus sonner que l'heure de la pure douleur ! : —

vice に足を据ゑ、*débauche*, *pourriture* に身を処することは必然的に苦痛を与えることはまぬがれない。それは足を据ゑるべきこの *le monde* が当然 *épineux* であることまぬがれないからである。

Cf. Bottom.

La réalité étant trop épineuse pour mon grand caractère, —
je me trouvais néanmoins chez Madame, en gros oiseau gris bleu s'essorant vers les moulures du plafond et traînant l'aile dans les ombres de la soirée.

Je fus, au baldaquin supportant ses bijoux adorés et ses chefs-d'œuvre physiques, un gros ours aux gencives violettes et au poil cheuu de chagrin, les yeux aux cristaux et aux argents des consoles.

俺の大きな性格にとっては、この現実には、荆棘に満ち過ぎてゐる

ので、——俺はやっぱり、天井の玉縁タマヅミに飛びかひ、夜の暗闇に翼を曳く青鼠色の巨鳥となつて、俺の女〔マダム〕の家にあつた。

俺は、数々の熱愛の宝石と肉体とを支へた天蓋の足許で、華卓子の玻璃と白銀の器物に眼を据ゑて、身は苦惱の白髪に覆はれ、紫の齒齧を出した一匹の大きな熊であつた。

このやうに現実には依然として *épineuse* であり、しかもここからの逃避が許されないとすれば、日は華卓子の水晶と銀器とに据ゑながら、齒齧は紫色に、苦痛に白髪となつた熊であることをまぬがれないわけである。——そこから一つにはランボオの *Farce* が出てくるのである。後述参照。——

Mauvais Sang の終りのところ (p. 28-p. 29.)

Comme je deviens vieille fille à manquer du courage d'aimer la mort !

Si Dieu m'accordait le calme céleste, aérien, la prière, —
comme les anciens saints, — Les saints, des forts ! les ana-
chorètes, des artistes comme il n'en faut plus !

Farce continue ! Mon innocence me ferait pleurer. La vie est la farce à mener par tous.

Assez ! voici la punition. — *En marche !*

Ah ! les pounons brûlent, les tempes grondent ! La nuit roule dans mes yeux, par ce soleil ! Le cœur les membres

死を愛する気力も失せたとは、まるで売れのこりの娘同然だ。神がもし上天の、天空の平穩を、祈りを、俺に与へてくれたなら、

「与へてくれるとしても、」——古代の聖賢に与へたやうに。「古代の聖賢のやうに。」——聖人か、強者か、ふん、遁世者、一向無用の芸術家か。

いつまでも続く道化芝居だ。俺は自分の単純無垢「イノサンス」に泣き出したくなる。人生とは万人の手で事が運ばれる道化芝居だ。もう沢山だ。見ろ、罰があつた。——進軍だ。

ああ、肺臓は焼け爛れ、顛顛はがんがんと鳴る。この太陽の照る中で、わが眼には闇夜がうねる。心臓が……手足が……

かく語つてゐる通りである。しかしそこにこそ抽象的ならぬ具体的な此岸の神の世界、ランボオの世界があつたのであり、無畏の安樂行が行ぜられるべきであつたのである。だから、*Nuit de l'Enfer*, p. 34 で

C'est la vie encore ! Plus tard, les délices de la damnation seront plus profondes. Un crime, vite, que je tombe au néant, de par la loi humaine.

それも矢張り生活だ。「矢張りそれが生活だ。」後になれば、地獄の責苦の甘美の味も一層深くなるだらう。犯罪よ、「罪よ、」急げ、人間法則の命により、俺が虚無「無」の中に墜ちて行く為に。

といふわけである。いはば煩惱を断ぜずして涅槃が見られてゐたのである、それがランボオの無 *Néant* であり、人間法則 *la loi humaine* であつたのである。このやうに苦痛の中にあつて——そこからの単なる逃避はもはや許されない——その中にこそ *délice de la damnation* も生れてくるわけであるから、単に *l'heure de la pure douleur* だけしか時計がうたないといふやうなことはあるまい、といふわけである。そこに

づれば *délice* が生れてくるであらうことをいつてみるのである。

この *horloge* といふ言葉の使ひ方は *Nuit de l'Enfer*, p. 35 の *Ah ça ! l'horloge de la vie s'est arrêtée tout à l'heure. Je ne suis plus au monde.*

ああさうだ、生活の時計は、先刻止つた許りだ。俺はもうこの世にはゐないのだ。

この使ひ方と同じである。その他 *Enfance* にも同じ使ひ方が見られる。
Il ya une horloge qui ne sonne pas.

時刻を打たない時計がある。

Vais-je être enlevé comme un enfant, pour jouer au paradis dans l'oubli de tout le malheur ? : —

jouer au paradis dans l'oubli de tout le malheur とは単なる *le monde* の否定、その彼方に見出された死の世界、寂靜の世界に遊ぶところ無化往相の面を指すもの、*Mauvais Sang*, p. 18 に出てきた *plage armoricaine* の世界の「じこぎ」もむかひ *Les Soeurs de Charité* において

O Mort mystérieuse, ô sœur de charité.

神秘的死神、おお、これぞまことの看護修道尼！

として *Mort mystérieuse* の *sœur de charité* を求めたじときをいふわけである。あるひはまた *Bateau ivre* の前半、とくに第五、六節

Plus douce qu'aux enfants la chair des pommes sures,

L'eau verte pénétra ma coque de sapin

Et des taches de vins bleus et des vomissures

Me lava, dispersant gouvernail et grappin.

Et dès lors, je me suis baigné dans le Poème

De la Mer, infusé d'astres, et lactescent,

Dévorant les azurs verts; où, flottaison blême

Et ravié, un noyé pensif parfois descend;

爽やかに酸^スき林檎^{リンゴ}より 子供らにとりては甘き

緑なる海水は わが樫^シ材^{サイ}の船^{フネ}体に滲^シみ入り、

色青き葡萄酒^{ウイスキー}の汚^ソ染^シ、嘔吐^{オムツ}の汚^ソ穢^シを

洗^シひ浄^{ジヨウ}めて、舵^{クワ}も失^シせたり。錨^{イカリ}も失^シせたり。

この日より、星の光に注^ツがれて、乳色に光り輝^ヒき、

碧瑠^{ヒル}瑠^ルの空^{カラ}を啖^クひて、大海^{ウミ}の詩^{ウタ}のただ中に

涵^ホりたり。その大海^{ウミ}に、流^ナれ行^ユく、恍惚^{ウツロ}として

蒼^{アヲ}ざめし吃^ク水^{スイ}線^{セン}の 水^{ミヅ}死^シ人^{ニン} 時^{トキ}をり思^{オモ}ひに沈^シみつ。

のうとき世界に遊ぶことを意味する。

しかし今はかかる単なる否定的死の世界、寂静の世界から超脱しようとする有化還相の立場にあるので、 Vais-je être enlevé comme un enfant ……といふわけである。この場合 enfant は不幸の忘却の中に遊ばぬものとしていふわけである。

即ち vice の中に足を据^ツゑ、しかもその中であつて les délices de la damnation の生れるところにこそランボオの窮極の世界があつたのである、^ランボオ^オ Génie^ニ じつじつとあるやうに

O monde ! et le chant clair des malheurs nouveaux !

おお、世界よ、新しい不幸の清澄な歌声よ。

不幸の中から清澄な歌声の上る世界であつたのである。不幸にゐるな
いわけであり、汚濁即清浄、清浄即汚濁の世界、それこそ抽象的ならぬ
最も具体的な此岸の神の世界であつたのである。

だから、ひびの p. 26 の Adieu chimères, idéals, erreurs ! (妄想よ、
理想よ、「観念よ」) 過失よ、おさらばだ。) といふわけである。また
Vous me choisissez parmi les naufragés; ceux qui restent sont-ils
pas mes amis? Sauvez-les ! (貴方は、(神よ) 難破した人の中から
俺を選んで下さつた。が、取り残された人々も、俺の友達ではないのか。
彼等を救ひ給へ。) といつてゐるやうに、有化還相の当然の帰結として、
ここに救済の思想も出てくるのである。

Vite ! est-il d'autres vies ? — Le sommeil dans la richesse
est impossible. La richesse a toujours été bien public. L'amour
divin seul octroie les clés de la science. Je vois que la nature
n'est qu'un spectacle de bonté. Adieu chimères, idéals, erreurs !
急がう。他に生活があるともいふのか。——豊かさ〔富〕の中
で居眠つてゐるのは不可能だ。豊かさ〔富〕とは常に公衆の利益
〔もの〕だったのだ。神の愛だけが智識の鍵を与へてくれる。自然
は善心に溢れた見世物に過ぎない、「自然は慈愛の展観に外ならな
い」と俺には見えるのだ。妄想よ、理想よ、「観念よ」 過失よ、
おさらばだ。

Vite ! est-il d'autres vies ? : —

vice の中じ malheur の中じるじ、その中から le chant clair が上つてくるじよにランボオの窮極の世界があつたとすれば、かくいふわけである。そこにランボオの強い信念が表明されてゐるものと云ふ。

Cf. Nuit de l'Enfer, p. 34.

Et c'est encore la vie ! — Si la damnation est éternelle !
Un homme qui veut se mutiler est bien damné, n'est-ce pas ?
Je me crois en enfer, donc j'y suis. C'est l'exécution du catéchisme. Je suis esclave de mon baptême. C'est la vie encore ! Plus tard, les délices de la damnation seront plus profondes. Un crime, vite, que je tombe au néant, de par la loi humaine.

而もそれも矢張り生活だ。「而も矢張りそれが生活だ。」——地獄の責苦が永劫のものとするならば。「永劫のものとしてゐた。」自ら手足を切つて不具にならうとするものは、「自ら手足を切らうとするものは、」まさしく地獄に堕ちた男ではないか。俺は自分が地獄にゐると信じてゐる、だから俺は地獄にゐる。それこそ教理問答書の実践だ。俺は自分の受けた洗礼の奴隷だ。……それも矢張り生活だ。「矢張りそれが生活だ。」後になれば、地獄の責苦の甘美の味も一層深くなるだらう。犯罪よ、「罪よ、」急げ、人間法則の命により、俺が虚無〔無〕の中に墜ちて行く為に。

かくてこそ、じぎにいつてゐるやうな richesse も出てくるのである。

Le sommeil dans la richesse est impossible : —

かかる有化還相の立場こそランボオの世界であり、そこにこそ真に豊かな生々流転の世界が展開せられてくるのである。

この la richesse はランボオの世界そのものをなしてゐる言葉であり、Mauvais Sang, p. 19 にある J'aurai de l'or et j'en aurai de l'or である。Solde とある diamant とあるのは、

Cf. Solde.

A vendre ce que le temps ni la science n'ont pas à reconnaître ;

Les richesses jaillissant à chaque démarche ! Solde de diamants sans contrôle !

Élan insensé et infini aux splendeurs invisibles, aux délices insensibles, — et ses secrets affolants pour chaque vice — et sa gaieté effrayante pour la foule.

A vendre les Corps, les voix, l'immense opulence inquestionnable, ce qu'on ne vendra jamais.

売物。……時間も科学も認めるべきではないものだ。……歩むに従つて、迸り出る様々な富。無統制のダイヤモンドの投売り。……

不可見の光彩、不可知の歓喜への、狂気じみた、無際限の飛躍。——そしてその物狂ほしい様々な秘密は、各人の悪徳のためだ、——その恐ろしい喜悅は群集のためだ。

売物。『肉体』だ、声だ、まさしく途轍もない豪華だ。将来も断じて売手はないものだ。……

科学的計量的時間を超越したところに出づへる *richesse* である。一步一步に現成する無辺際の際の *richesses* jaillissant である。しかもそれは vice, foule のためのものである。

このやうに *la richesse* がランボオ的世界そのものを指すと同時に、そのランボオ的世界が単なる否定的な *mort, ennui* の寂靜の世界ではなく、その超克に出づへる生々流轉の豊かき世界であることをいふのである。

Cf. *Mauvais Sang*, p. 23.

Dans les villes la boue n'apparaissait soudainement rouge et noire, comme une glace quand la lampe circule dans la chambre voisine, comme un trésor dans la forêt! Bonne chance, crais-je, et je voyais une mer de flammes et de fumée au ciel; et, à gauche, à droite, toutes les richesses flambant comme un milliard de tonnerres.

突然、俺の眼に、街々の泥土は赤く見え黒く見えた、隣室の燈火が動く時の鏡のやうに、森に秘められた宝のやうに、運が好いぞ、と俺は叫んだ。そして俺は天上に煙と煙との海を見だし、左に右に、数限りもない霹靂のやうに。燃え上るあらゆる豊麗〔富〕を見た。

Cf. *Vies*.

Exilé ici j'ai eu une scène où jouer les chefs-d'œuvre dramatiques de toutes les littératures. Je vous indiquerais les richesses inouïes. J'observe l'histoire des trésors que vous trouvatés. Je vois la suite! Ma sagesse est aussi dédaignée que le chaos.

Qu'est mon néant, auprès de la stupeur qui vous attend?

ここに、流竄の身となって、俺はあらゆる文学の演劇的傑作が演ずる一幕をわがものとした。君達に未聞の富をみせようか。俺は、君達の見付け出した宝物の歴史を観察する。すると次に来るものが見える。混沌をさげすむやうに、俺の叡知をさげすむのだ。君達を待つ昏睡に比べては、俺の虚無〔無〕とはそもそも何か。

このやうに *néant* 無の現成としての *richesse* である。それは *richesse* inouïe であったのである。

Cf. *Délitres*, I, p. 43.

Ma richesse, je la voudrais tachée de sang partout.

俺の財貨〔富〕は血だらけに染つてほしいのだ。

その *richesse* が *le monde* に足を据ゑた有化還相の立場にたつもの故にかくもいふわけである。

かくつこの「富の中に居眠つてゐるのは不可能だ」といふのは、*Vais-je être enlevé comme un enfant, pour jouer au paradis dans l'oubli de tout le malheur?* に対応して、自己の救済のみならず、他者の救済の思ひをここに語つてゐるのである。

La richesse a toujours été bien public: —

この *richesse* が常に *public* であつたのは、この *richesse* は本来すべての人のもの、即ち、本来誰もがこの富をもつてゐるのだとの意であるので、いはば悉有仏性、悉皆成仏の意である。

にもかかはらず多くの人が無明の闇におははれてゐるところに救済の思ひが出づへるのである。Le sort du fils de famille の条の註解参照

のこと。即ち fatalité du bonheur' あるいは Bonheur que nul n'évade と同じ考へ方に基いてゐるのである。

L'amour divin seul octroie les clefs de la science: —

なるほど richesse は本来 public なものではあるが、多くの場合無明の闇におほはれてそのことを覚知してゐない。この知識をひらく鍵は l'amour divin のみだ。l'amour divin の鍵がなければこの知識はひらかれない。したがってこの l'amour divin はいはば菩薩の慈悲である。還相行における愛、先渡他の愛である。

これはもちろんヘロスの愛でもなければ、キリスト教における愛でもなく、ランボオにおいては愛の革命、新しい愛が求められてゐた、その愛である。

Cf. Conte.

Il prévoyait détonnantes révolutions de l'amour, et soupçonnait ses femmes de pouvoir mieux que cette complaisance ag-rémentée de ciel et de luxe.

彼は恋愛「愛」の驚くべき革命を予見してゐた、そして妻妾達「女ども」には、お天気と裝飾とに甘やかされた喜び以上のものは、一体が無理ではないのかと考へてゐた。

Cf. Vies, II.

Je suis un inventeur bien autrement méritant que tous ceux qui m'ont précédé; un musicien même, qui ai trouvé quelque chose comme la clef de l'amour.

俺は、すべての先人達に比べては、全く違った貢献をした一発明

地獄の一季節註解

者だ。恋愛「愛」の鍵とでもいふやうな或ものを発見した音楽家だと言つてゐる。

Cf. A une Raison.

Ta tête se détourne: le nouvel amour! Ta tête se retourne, — le nouvel amour!

お前が頭を廻らせば、新しい愛だ。頭を復せば、——新しい愛だ。Adieu, p. 87 だけ

Un bel avantage, c'est que je puis rire des vieilles amours mensongères, et frapper de honte ces couples menteurs, ……

有難い事には、俺は昔の偽りの愛情「愛」を嗤ふ事が出来るのだ、この番になつた嘘吐き共に、赤恥を掻かせてやる事も出来るのだ、……

このやうにしてゐる。この愛は全く新しい愛として、前記のやうに、めがねヘロスの愛ではなく、キリスト教の愛びめなうのじ、Adieu, p. 85 だけ

Suis-je trompé? la charité serait-elle sœur de la mort, pour moi?

俺は騙されてゐるのだろうか。俺にとって、慈愛とは死の姉妹であらうか。

どうしてゐる。ランボオにおける l'amour divin は死の姉妹としての charité ではない。それは有化還相行における愛、下界における愛である。

Cf. Mauvais Sang, p. 21.

O mon abnégation, ô ma charité merveilleuse ! ici-bas, pour-tant !

De profundis Domine, suis-je bête !

おお俺の自己抛棄、おお俺の不可思議な慈愛、だがそれも、この世のこと。

主よ、奈落の底より、寔に俺は阿呆だ。

それは自己否定に出でくる、いや、自己否定を媒介としなければ出でこない此岸の愛である。有の絶対肯定的愛である。そこに Génie や

O lui et nous ! l'orgueil plus bienveillant que les charités perdues.

おお、彼と俺達、失はれた数々の慈愛よりも、遙かに好意のある倨傲さだ。

と云つてゐるやうな倨傲さをもつものである。それはキリスト教的 charité, charités perdues ではないわけである。死の姉妹としての charité ではないのである。charité merveilleuse といふ所以である。さうしてこのランボオの l'amour divin は、富が public であり、幸福は fatalité として誰しものが得ぬ幸福であったやうに、凡てに対する愛であり、凡てが有のままに救はれる愛である。

Cf. Génie.

Il est l'affection et le présent puisqu'il a fait la maison ouverte à l'hiver écumeux et à la rumeur de l'été, lui qui a purifié les boissons et les aliments, lui qui est le charme des lieux fuyants et le délice surhumain des stations. Il est l'affection et l'avenir,

la force et l'amour que nous, debout dans les rages et les ennuis, nous voyons passer dans le ciel de tempête et les draps-eaux d'extase.

Il ne s'en ira pas, il ne redescendra pas d'un ciel, il n'accomplira pas la rédemption des colères de femmes et des gaietés des hommes et de tout ce péché : car c'est fait, lui étant, et étant aimé.

Il nous a connus tous et nous a tous aimés.

泡立つ冬に、夏のさわめきに、家を開け放ったからには、彼は愛情だ、現在だ。飲料を清め、食物を清めた彼、移り行く様々な地点の魅惑でもあり、様々な停止点の超人的な歓喜でもある彼。彼は愛情であり、未来である、力であり愛である。俺達は、憤怒と倦怠との裡に佇んで嵐の空と恍惚のはためく旗の間に、さういふ彼の姿が通つて行くのを眺めるのだ。.....

彼は何処にも立ち去りはしまし、空から下りても来まい、女共の憤怒と男共の上機嫌とこの罪業全部との、贖ひを遂げようともしない。何故なら、彼が存在し、愛されてゐる限り、もう出来てゐるのだから。.....

彼は俺達すべてを知った、俺達すべてを愛した。.....

それは親鸞の至心廻向の愛であり、祈りを求めない、ただ信ずることのみにあつて凡つて向けられる l'amour divin である。

Cf. Nuit de l'Enfer, p. 36.

Fiez-vous donc à moi, la foi soulage, guide, guérit. Tous,

Venez, — que je vous console, qu'on répare pour vous son cœur, — Le cœur merveilleux ! — Pauvres hommes, travaillez ! Je ne demande pas de prières ; avec votre confiance seulement je serai heureux.

それでは、俺を信ずる事だ、信仰が、心を和げ、導き、癒すのだ。みんな来るがいい。——子供達も来るがいい、——俺は君達を慰めよう、君達の為に、人はその心を、靈妙な心を、ふり注ぐやうにしよう。——哀れな人々、労働者達。俺は祈りなどを望みはしない。君達の信頼さへあれば、俺は幸福になれるだらう。

その信ずることがなくても、なほ信ずることをうながす amour divin ですからある。

Cf. Génie.

Et nous nous le rappelons et il voyage Et si l'Adoration s'en va, sonne, sa promesse sonne : « Arrière ces superstitions, ces anciens corps, ces ménages et ces âges. C'est cette époque-ci qui a sombré ! »

そして、俺達は彼の事を思ひ出し、彼は旅する……若し『崇拜』が姿をかくせば、鳴るのだ、彼の約束「のぞみ」が鳴るのだ。『退れ、群がる迷信、昔ながらの肉体、それらの世帯と年齢共。当代こそ正に潰滅したのだ』と。

なほ Comédie de la Soif, I, Parents 参照のこと。(引用は省く。) かかる愛においてこそこの richesse は真に public となるわけである。かかる愛の鍵によってのみ知識もひらかれるわけである。

なほ J の science は、科学の意味に使ってゐる場合も多いが、ここは A une Raison に代わる Raison と同じ意味に使はれてゐるとみてよい。 Je vois que la nature n'est qu'un spectacle de bonté : —

L'amour divin によって知識がひらかれ、無明の闇がはれてみれば、richesse は public であり、そこには fatalité として誰しもがまぬがれ得ない bonheur の世界が覚知せられるわけである。だとすれば nature は正に慈愛の展観に外ならぬわけである。

nature については、前節 p. 24 参照。有即無、無即有、往相即還相、還相即往相としての Nature である。かかる Nature は L'amour divin の鍵によって覚知せられ、それは L'amour divin によって支へられたものといつてもよいであらう。したがって Nature は慈愛の展観に外ならぬといふわけである。

Adieu chimères, idéals, erreurs ! : —

ややと (p. 25)

Vais-je être enlevé comme un enfant, pour jouer au paradis dans l'oubli de tout le malheur ?

といつてゐるやうに、すべての不幸を忘れて paradis に遊ぼうとしたことは、空なる寂靜の世界、死の世界に遊ぼうとしたことは、それは chimères であり、idéals であり、erreurs であつたわけである。今、有化還相行として L'amour divin を行ひ、richesse が真に public であることを知らしめねばならぬ、菩薩行を行じねばならない。かつては、そこにこそ Sœur de Charité を求めた死の世界、観念的彼岸の世界よ、さやうならぬ意である。

Cf. Adieu, p. 85 et p. 87.

Enfin, je demanderai pardon pour m'être nourri de mensonge.
Et allons.

最後に、俺は自ら虚偽をもつて身を養つてゐた事を謝罪しよう。
やつて行くのだ。

Un bel avantage, c'est que je puis rire des vieilles amours
mensongères, et frapper de honte ces couples menteurs, —
j'ai vu l'enfer des femmes là-bas; — et il me sera loisible
de posséder la vérité dans une âme et un corps.

有難い事には、俺は昔の偽りの愛情〔愛〕を嗤ふ事が出来るのだ。
この番になつた嘘吐き共に、赤恥を搔かせてやる事も出来るのだ。
——俺は遙か彼方に女共の地獄を見た。——そして、俺には、一つ
の魂と肉体との裡に、眞実を所有する事が許されるだらう。

Le chant raisonnable des anges s'élève du navire sauveur :
c'est l'amour divin. — Deux amours ! je puis mourir de
l'amour terrestre, mourir de dévouement. J'ai laissé des âmes
dont la peine s'accroîtra de mon départ ! Vous me choisissez
parmi les naufragés ; ceux qui restent sont-ils pas mes amis ?
Sauvez-les !

天使達の正しい歌声が救助船から起る。それは神の愛だ。——愛
には二つある。俺は地上の愛にも死ねる、献身の想ひにも死ねる。
俺は多くの靈魂を見棄てて来たが、彼等の苦しみは俺の出発によつ

て増す許りであらう。貴方は、(神よ)難破した人々の中から俺を
選んで下さつた。が、取り残された人々も、俺の友達ではないのか。
彼等を救ひ給へ。

Le chant raisonnable des anges s'élève du navire sauveur :
c'est l'amour divin : —

この「l'amour divin」を行きかへ還相行は「navire sauveur」である。この
すぐ後で煩惱具足の現世の人々を naufragés とつておぼへると関
連つて出づる言葉である。

どつどつからあがる歌声は天使の le chant raisonnable である。

Cf. Génie.

O monde ! et le chant clair des malheurs nouveaux.

ああ、世界よ、新しい不幸の清澄な歌声よ。

Cf. Age d'Or.

Quelqu'une des voix

Toujours angélique

—— Il s'agit de moi, ——

Vertement s'explique :

.....

Puis elle chante. O

Si gai, si facile,

Et visible à l'œil nu

—— Je chante avec elle, ——

.....

Le monde est vicieux ;
Si cela t'étonne !
Vis et laisse au feu
L'obscur infortune.

O ! joli château !
Que ta vie est claire !
De quel Age es-tu,
Nature princière
De notre grand frère ? etc

Je chante aussi, moi :
Multiples sœurs ! voix
Pas du tout publiques !
Environnez-moi
De gloire pudique etc

いつもかはらず天女めく
何やら御声が聞えては
——それはどうやら俺の事——
いとおごそかにのたまはく
……………

それから御声の唄はるる、おお、
心もかるく、身もかるく、

裸はの眼には 見ゆるなり……
——俺も一緒に声合す、——
……………

現^{ウツ}し世 なべて悪の世ぞ、
何とて お前はおどろくか！
生きよや 日蔭の不運をば
炎の中に 燃やすべし。

ても美しや！ 城の影！
お前の生命は輝けり！
ああ、いつくしき大自然
我が大いなる兄弟よ
お前の齢ひはいくばくぞ？ etc

俺もその時唄ひ出す、
数限りなき妹達よ！
世間知らずのお言葉よ！ [げにこの世の声ならず！]
世間的な栄えもて
身をかざるこそわが希ひ……etc

〔汚れなき栄えもて つつまれん……etc ..…〕
le chant が出てくるのは、ランボオが自己の世界をしばしば音楽を以て
象徴してゐることと関連するのであり、それを *raisonnable* といふのは、

A une Raison における意味での raison になつたの意でいふわけである。即ち la nouvelle harmonie' le nouvel amour の唄声であり、科学的計量的時間を超えた世界から上る唄声である。何時、何処にでも随時随所にあがる唄声である。それが l'amour divin なのである。

anges といふのは前掲 Age d'Or の外に

Cf. L'Impossible, p. 70.
S'il était bien éveillé toujours à partir de ce moment, nous serions bientôt à la vérité, qui peut-être nous entoure avec ses anges pleurant !

俺の精神が、この瞬間から絶えずはつきりと目覚めてみてくれるとしたら、俺達はやがて真理に行き著くかも知れぬ。真理は恐らく泣いてゐる天使達をつれて俺達を取巻くであらう……

Deux amours ! je puis mourir de l'amour terrestre, mourir de dévouement : —

Deux amours とは、この世の amour terrestre と dévouement の愛をいふ。amour terrestre とは、還相行における、彼岸の世界ならぬ此岸の地上の愛、それは、上米述ぐ来つてゐる l'amour divin によつて、richesse は真に public であり、誰しもが宿命として受け得ぬ Bonheur を覚知せしめられることにおいて、あらゆる不幸の中に、悪徳の中に足を据ゑ、その中に délice de la damnation を覚えるであらう、ここにこの此岸の世界が絶対肯定的に肯定せられ、したがつてこの地上の世界にこそ真に無畏安樂の安住の地が見出されるわけである、かかる意味に於つてこの le monde を、この le monde に於ける la vie を愛する地

上の愛をいふわけである。

したがつて、この amour terrestre は、やぎに l'amour divin の条で述べたやうに、それは全く新しい愛であり、愛の革命に出てきた愛である。またそれは「死の姉妹」としての愛ではなく、キリスト教的な愛ではない。charités perdues (Cf. Génie.) とせなく、charité merveilleuse (Cf. Mauvais Sang, p. 21.) である。その意味は有化還相行における下界の愛である。もちろんそれはヘロスの愛ではない。Le monde' le monde に於ける la vie が絶対肯定的に肯定せられ、そこに真に無畏安樂な安住地を見出す底の地上の愛である。

dévouement の愛は l'amour divin によつて覚知せしめられた上記 amour terrestre の、むしろ必然的帰結といつてもよいわけであり、それこそ勝義の l'amour divin によつてもよいであらう。救助船から上る le chant raisonnable des anges とつての愛である。救済の愛である。Sauvez-les とは声を発せしめる愛である。もちろんそれは後に言つてゐるやうに “Le monde est bon.” とは、この世を真に覚知せしめんため

の救済である。

- Cf. Dévotion.
- Pour les naufragés.
 - Pour la fièvre des mères et des enfants.
 - Pour les hommes ! —— A madame * * *
 - A l'adolescent que je fus. A ce saint vieillard, ermitage ou mission.
 - A l'esprit des pauvres. Et à un très haut clergé.

Aussi bien à tout culte …… — pour ma seule prière muette
comme ces régions de nuit et précédant des bravoures plus vio-
lentes que ce chaos polaire.

A tout prix et avec tous les airs, même dans des voyages
métaphysiques. — Mais plus *alors*.

——難破した人々の為に。

——母親達と子供達との発熱の為に。

——世の男達の為に。——××夫人へ。

嘗ての俺の青春へ。隠遁乃至は伝道の、この年老いた聖者へ。
貧しい人々の心へ。そして至徳の僧へ。

扱て又、凡ての礼拝へ。……この極地の混沌よりも尚荒々しい様
々な武勇を先立てて、この常闇の国に倣って口を嚙んだ、俺の唯一
の祈願の為に。

どんな事があろうと、どんな姿にならうとも、たとひ形而上学の
旅にやまよはうとも。——「や、その時は猶更の事だ。

J'ai laissé des âmes dont la peine s'accroîtra de mon départ !
Vous me choisissez parmi les naufragés ; ceux qui restent sont-
ils pas mes amis ?

Sauvez-les ! : —

Conte にやう

Toutes les femmes qui l'avaient connu furent assassinées. ……

Il tua tous ceux qui le suivraient, ……

彼を知った女達は、すべて殺された。……

彼は従ふ人々をすべて殺した。……

うらつてゐるやうに le monde 否定の道をたどることにやうに、そして
Génie との際会においてランボオ的世界はひらかれ、そこに自己の救済
を求めたのだが、まだ他者の救済はなかった。Délires, I, p. 46 じゃ

Comme ça te paraîtra drôle, quand je n'y serai plus, ce par
quoi tu as passé. Quand tu n'auras plus mes bras sous ton cou,
ni mon cœur pour t'y reposer, ni cette bouche sur tes yeux.
Parcequ'il faudra que je m'en aille, très loin, un jour.

俺がゐらなくなったら、お前がこんな風に暮して来たことが、どん
なにお前に滑稽に見えるだらう。お前の頸にはもう俺の手が絡まず、
お前の休むのにもう俺の胸がなく、お前の眼の上にはもうこの口が
接吻しなくなったその時には。何故って、俺はいつかは、遠い処に
行っちまふんだからな。

このやうに言つてゐる。それはむしろ当然かも知れない。Mauvais
Sang, p. 19 じゃ

Je reviendrai, avec des membres de fer, la peau sombre,
l'œil furieux : …… J'aurai de l'or : je serai oisif et brutal. ……
Je serai mêlé aux affaires politiques. Sauvé.

俺は、鋼鉄の四肢と、浅黒い肌と、兇暴な眼とをもつて、還つて
来るだらう。……黄金を俺は貯めよう。「得ることだらう。」何もこ
ない。しかも獣物のやうな「ブリュタマルな」男にならう。……俺
は政治の渦中に巻き込まれるだらう。救はれるのだ。

と云つてゐる。この Sauvé にも自己の救済はあつても他者の救済はま

だ現はれてゐない。しかし無明の闇におほはれた naufrage としての le monde に対する救済の思ひも、有化還相行においては当然の帰結としてよいであらう。かくて上掲につづいて

Puis il faut que j'en aide d'autres : c'est mon devoir. Quoique ce ne soit guère ragoutant chère âme.....

それに他の奴等だつて助けてやらなくてはならない、それが俺の義務なんだ。たとひ、あんまりぞつとしない仕事かも知れないが、.....解つたな.....

とつてゐる。その他 Dévotion, Génie 等参照。

もちろん、既述のやうに、ランボオの救済の思想には先渡他の思想があり、親鸞的至心廻向と軌を一にする Parents, Génie の思想があり、そこには祈りは否定せられてをり、ただ信仰のみが求められてゐる (Cf. Nuit de l'Enfer, p. 46. — Fiez-vous donc à moi, la foi soulage, guide, guérit.)。naufragés はもちろん le monde の煩惱具足の無明の闇におほはれた人々をさす語であり、noyé, damné, spectre 等と一連の語をなすものである。

La raison m'est née. Le monde est bon. Je bénirai la vie.
J'aimerais mes frères. Ce ne sont plus des promesses d'enfance.
Ni l'espoir d'échapper à la vieillesse et à la mort. Dieu fait ma force et je loue Dieu.

理性は俺に誕生した。世の中はなかなかよい。俺は生活を祝福し

よう。同胞を愛さう。これは、もはや少年時代の約束事〔のぞみ〕ではない。老衰と死とを通れようとする希ひでもない。神が俺の力を作る。俺は神を崇める。

La raison m'est née. Le monde est bon. Je bénirai la vie : —

この raison は前掲のやうに A une Raison に代つて raison の意で sagesse に通ずる。l'amour divin に支くられた richesse が真に public なることを覚知せしめる raison である。

richesse が真に public なることを覚知すれば、自他共に、一切がこの richesse (de l'or, pierre précieuse, diamant) の中にゐることとなるわけであり、le monde est bon といふわけである。

もちろん、この le monde は同時に vicieux である (Cf. Age d'Or.)。即ち le monde est vicieux であると同時に le monde est bon である。かくて le monde に代つて vice を背負つた la vie を祝福することにもなるわけである。かくして Nuit de l'Enfer, p. 34 や

C'est la vie encore ! Plus tard, les délices de la damnation seront plus profondes. Un crime, vite, que je tombe au néant, de par la loi humaine.

それも矢張り「矢張りそれが」生活だ。後になれば地獄の責苦の甘美の味も一層深くなるだらう。犯罪よ〔罪よ〕、急げ、人間法則の命により、俺が虚無〔無〕の中に墜ちて行く為に。

といふわけである。

単なる否定的死の世界ではなく、否定を媒介とする絶対肯定的な la vie においてこそ richesse が、richesse inouïe が展開せられるのであ

る。豊かに、滞ることなく、流転して止まぬ自然法爾の世界が展開せられるのである。

Cf. Vies, I.

Exilé ici j'ai eu une scène où jouer les chefs-d'œuvre dramatiques de toutes les littératures. Je vous indiquerais les richesses inouïes.

ここに、流竄の身となって、俺はあらゆる文学の演劇的傑作が演ぜられる一幕をわがものとした。君達に未聞の富を見せようか。

かかる la vie は l'amour divin に支えられた世界であるので、同様に Je suis un inventeur bien autrement méritant que tous ceux qui m'ont précédé; un musicien même, qui ai trouvé quelque chose comme la clef de l'amour.

俺はすべての先人達に比べては、全く違った貢献をした一発明者だ。恋愛「愛」の鍵とでもいふやうな或るものを発見した音楽家だと言いつてもいい。

といふわけであり、またいぎのやうにもいふわけである。

Mais comme ce scepticisme ne peut désormais être mis en œuvre, et que d'ailleurs je suis dévoué à un trouble nouveau, — j'attends de devenir un très méchant fou.

だが、もはや、この懐疑をどうかうといふ事もかなはぬのだから、尚又、新たな懊悩に献じたこの身であってみれば、——ただ奸佞な狂人となるのを待つばかりだ。

また、かかる否定を媒介とする絶対肯定的生は、けっして単なる隠遁、

古めかしい隠遁ではなく、ランボオの言葉を借りれば illustre retraite である。単なる否定的ではなく illustre retraite になつてこそ豊かな流転の richness があるわけである。

Cf. Vies, III.

Dans un vieux passage à Paris on m'a enseigné les sciences classiques. Dans une magnifique demeure cernée par l'Orient entier j'ai accompli mon immense œuvre et passé mon illustre retraite. J'ai brassé mon sang. Mon devoir m'est remis. Il ne faut même plus songer à cela. Je suis réellement d'outre-tombe, et pas de commissions.

巴里の古風な裏通りでは、人々が俺に古典の造詣を授けてくれた。俺は、東洋全土で囲まれた壮麗な住居で、自分の大業を完成して、赫々とした隠遁を過した。俺は、俺の血液を攪拌した。再び、務めはこの手に戻った。これに就いては、夢みる事すら許されぬ。本当に墓場の向ふから来たこの俺だ、何の用事があるものか。

J'aimerai mes frères: —

士に *Je* Vous me choisissez parmi les naufragés; ceux qui restent sont-ils pas mes amis? / Sauvez-les. *と* *い* *つ* *い* *ぬ*。否定して去った le monde の人々 (Cf. Qu'est-ce pour nous, mon cœur? etc., etc.,)

が今や還相救済の立場にあつて frères となっているのである。

Ce ne sont plus des promesses d'enfance: —
い *の* *promesses d'enfance* は *Enfance* *に* *あ* *つ* *て* *語* *ら* *れ* *て* *い* *る* *や* *う* *な*
死の世界、寂靜の世界に対するのぞみである。 *enfance* に関しては

Mauvais Sang, p. 22, Encore tout enfant, j'admiraient le forçat intraitable ……の条の註解参照のこと。

もはや少年時にひらかれた死の世界、寂静の世界に対するのぞみではないといふことは、今、還相の立場にあって *le monde* の人々を友として、兄弟として愛し、救済しようとするのであるからである。

Ni l'espoir d'échapper à la vieillesse et à la mort. Dieu fait ma force et je loue Dieu : —

有化還相行として絶対肯定的な意味で *Le monde est bon. Je bénirai la vie. J'aimerai mes frères.* といつてゐるのである。それはけつこつ単なる否定的な寂静の世界へののぞみではない、*promesses d'enfance* ではないわけである。死の世界への *promesses d'enfance* ではないが、やはりいつ *vieillesse* や *mort* からのがれようとする希望でもなく。それはもともと否定を媒介とする *le monde* の絶対肯定であるからである。いはば生死の中において、みない行雲流水の軽やかな自然法爾の世界である、任運の世界である。

Cf. Mauvais Sang, p. 20.
soulever, le poing desséché, le couvercle du cercueil, s'asseoir, s'étouffer. Ainsi point de vieillesse, ni de dangers : la terreur n'est pas française.

萎びた拳で、棺桶の蓋を揚げ、腰を下して、息が絶えるのだ。かうすれば老衰もなく、危険もない。恐怖はフランス趣味でない。

Cf. Ville.
Ces millions de gens qui n'ont pas besoin de se connaître

amènent si pareillement l'éducation, le métier et la vieillesse, que ce cours de vie doit être plusieurs fois moins longs que ce qu'une statistique folle trouve pour les peuples du continent.

自分を識らうとする要求を持たぬこの幾百万の人々は、すべて一列一体、教育を、職業を、老齢を曳摺って行く。これでは人の生涯は、ある気違ひ染みた統計が、大陸の人々に就いてしらべた処より、幾層倍も短いものに違ひない。

かかる行雲流水の自然法爾、任運の世界においてこそランボオの神が現成するのである。生死の中においてゐない、即ち死において生を行ずること、絶対無畏の、真の強さを出てくるのである。

Cf. Mauvais Sang, p. 22.

《Faiblesse ou force : te voilà, c'est la force. Tu ne sais ni où tu vas, ni pourquoi tu vas, entre partout, réponds à tout. On ne te tuera pas plus que si tu étais cadavre.》

「弱気にしろ、強気にしろだ、〔弱くても、強くても〕貴様がさうしてゐる、それが貴様の力ぢやないか。貴様は何処に行くのか知りはない、何故行くのかも知りはない、何処へでも到る所に入つて行け、何にでも返答をしろ。貴様が仮りに屍体であったとしたら、それ以上に殺さうとする奴もあるまい。」

この強さは神の現成を行ずることに基く強さである。かくて Mauvais Sang, p. 18 で *J'attends Dieu avec gourmandise* (俺は貪欲にがつがつと神を待つてゐる) といった、その神が現成するわけであり、神をたたへるわけである。(未完)